

平成 27 年度
学校評価報告書
(自己評価・学校関係者評価)

四国医療専門学校

1. 自己評価について

対象期間：平成 27 年 4 月 1 日（水）～平成 28 年 3 月 31 日（木）

実施期間：平成 28 年 4 月 12 日（火）～7 月 14 日（木）

2. 重点目標

- 1) 評価項目全般にわたって評価水準の向上を目指す。
- 2) 入学者数 285 名以上
- 3) 退学率の低減 4%以内
- 4) 国家試験合格率 95%以上

3. 目標達成のための具体的事業計画、行動計画

- 1) 前年度の低い評価箇所の改善
- 2) 学生募集の強化
- 3) 教員の指導力の向上
- 4) 資格取得対策の強化

4. 学校関係者評価について

学校関係者評価委員会開催

日時：平成 28 年 7 月 17 日（日）13:00～14:40

出席者 10 名、委任状提出者 5 名、欠席者 1 名

会場：四国医療専門学校 3 号館 204 教室

1. 教育理念・目的・育成人材像

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・教育理念は明文化されており、学内外へ広く公表されている。 ・学校の教育理念は建学の精神とともに定められており、教職員・学生・保護者・その他学外へもさまざまな手段で公表されている。 ・また、各学科においても、教育理念・目標・育成人材像を授業概要に明記し、学生・保護者に周知している。 ・今後も教育理念を学外に広く公表し、社会や業界のニーズに合った人材育成を行う。	・評価結果は適当であると認める。

2. 学校運営

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・医療系の専修学校であることから、法令上の運営基準がきめ細かく定められており、それを遵守する形で、自ずと学校運営の適正は一定水準の確保がなされている。 ・前年度評価が低かった人事面について、人事考課制度の導入を図り、28年度に試行する。 ・必要に応じて規程の見直しを行う。	・評価結果は適当であると認める。

3. 教育活動

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・それぞれの学科では医療国家資格を養成するための修業年限とカリキュラムを設定し、教育到達レベルを明確にして医療人の人材育成を行っている。それらは授業概要に明文化され、学生へ配布し説明を行っている。 ・教育活動はカリキュラム及び授業概要にそって実施されている。 ・授業評価を計画的に実施し、フィードバックを通して授業の改善に努める。	・点検項目の「地域の特性を活かした教育を行っていますか」と「地域と協力、連携した教育を行っていますか」について、香川県に限定する必要性はないと思われる。

	・その特性により、県内と同様またはそれ以上に県外との連携が強い学科があり、かつ、その実績が認められることから、評価結果を上方修正してもいいのではないかな。 ・以上の意見等により、協議した結果、当該部分の評価を上方修正することとなった。
--	--

4. 学習成果

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・資格取得率と就職率向上対策は計画性をもって行われている。あん摩マッサージ指圧師（鍼灸マッサージ学科）、はり師、きゅう師（鍼灸学科 2 部に限る）及び作業療法士（作業療法学科）の合格率は 100%、それ以外の学科も一部を除き全国平均以上の合格率であった。 ・資格試験対策は最上級学年の担任及び他の教員が協力し早期から取り組んでいる。教員が作成した模擬試験と業者の模擬試験等を利用して学生個々の状況を把握しつつ、個別指導や補修等の学習サポートを行っている。残念ながら資格取得ができない者も少数いるため、卒業後も資格取得に向けて引き続きサポートする。	・評価結果は適当であると認める。

5. 学生支援

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・就職支援については、まず担任が面談を行い、学生の希望を聴取したうえで個別指導・助言等を行い、合わせて就職説明会、職場見学等を実施している。その結果、就職内定時期は学科によって違いはあるものの、就職希望者は全員就職できている。なお、就職支援体制は、担任と学科長が協力する構成となっている。 ・学生の中には、卒業後の研修を望む者もいるため、学校附属施術所をはじめ、研修先の確保を検討する必要がある。 ・また、安定的な就職先の確保につながるよう、同窓会との連携強化を図る。	・「大学卒業者であって貴校への入学を希望する者に対して、編入学の制度は設けていないのか。」「社会人から見た場合、4 年制の学校・学科は、3 年制の専修学校に比べ不利ではないのか」等の質問がなされた。 →「編入学」について学校職員の回答：同じ資格を養成する専修学校等を中退した

・中途退学を防止するために、さまざまな学習支援策が講じられており、退学率は前年度の6.5%から4.3%に減少した。近年、学生も多様化しており個別に対応せざるを得ない状況も多々見られるが、引き続き中途退学者数の軽減を図る。 ・大学等卒業生の既修単位の認定、2部（夜間部）の継続的な運営等社会人への学修支援を行っている。また、一部の学科に限られるものの学校独自の修学支援制度を設けたり、教育訓練給付金の指定講座（修業年限が3年の学科が対象）となったり、経済面での支援にも努めている。 ・学習環境面では、情操教育の一環として、中庭の設置等自然環境整備に努めているほか、ロビー等に絵画を飾るなどしている。 ・生活支援面では、学生寮を3棟完備し、周辺より低い価格設定で学生へ提供している。	者が本校へ編入学することは認めているが、分野・系統の異なる大学の卒業者の場合には、既修科目の単位を認めてはいるものの、編入学は法的に認められていない。 →「4年制」に対する看護分野の委員の回答：平成21年の第171回通常国会において、「看護師の基礎教育は4年」と決議された。貴校は計画の時点（平成17年）から4年制を打ち出しており、先見の明があるとともに、注目もされている。
--	---

6. 教育環境

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・教育上必要な施設設備・教具等の教育環境は整えられている。平成27年度は理学療法学科と看護学科の定員増に伴い教具等を追加整備したほか、故障したもの等については、修繕・買替等を行った。ただし、所定の保管場所がない場合や、経年劣化したり、紛失したりしてしまうこともあるため、計画的に点検を実施し、経年劣化が認められたり、不足が生じる場合には、速やかに買替・補充等ができるよう配慮する。 ・平成27年度に5号館に隣接している旧店舗の土地・建物を購入した。教育のため、教育環境整備のため有効活用すべく検討を行っている。 ・防災教育については、校舎毎に懐中電灯や防災ラジオなどを設置し、徐々に防災対策を進めてきた。また、毎年度「香川県シェイクアウト」にも参加しているほか、日中の訓練ができない夜間部（2部）についても別日程で避難訓練等を実施している。 ・ただし、防災に対する学生と教職員の意識を更に高める必要があると感じており、防災・安全管理体制を計画的に見直し整備する。 ・学外実習に関して、現状、実習施設の確保はできている。	・教育環境は十分整えられていると思うが、もっと積極的に広報に務めるべきではないか。

7. 学生の受け入れ募集

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・学生募集の主対象者は高校新卒者であり、学生募集は積極的に行っている。広報部職員及び広報担当教員以外の教員も学生募集に協力しているが、十分とは言えない。 ・学生募集に関し、さまざまな取り組みを行っているが、少子化と社会人の入学者減少により、成果は限定的なものに留まっている。なお、社会人は就業までの期間や社会情勢等から4年制よりも3年制の専修学校を志望する傾向にある。 ・授業料の納付は、負担軽減を考え、前・後期の分納となっている。また、各年度前期の授業料納付に関する請求は当該期の開始後に行っている（新入生の前期授業料も入学後に請求している）。なお、教材費については明示が不十分なところがある。 ・より多くの学生獲得に向け、特待生制度等学生への支援体制の拡充を検討するとともに、学校・学科の特色をもっとアピールする工夫が必要。	・学生募集に際し、ホームページの工夫が必要ではないか。 （例）教員紹介に関し、顔と名前だけではなく、得意なことや専門領域等の表記を積極的に行う等。

8. 財務

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・ここ数年、学生数が減少傾向にあり、学生生徒納付金収入も減少傾向にあるが、経費節減に努めた結果、収支バランスは確保できている。 ・予算と事業計画の関係にやや不十分な点が見られるが、稟申の都度、事業内容を個別に精査し、その可否を決裁することにより、結果として適切な予算執行が確保されている。 ・財務情報については、ホームページ等で公開している。 ・財政基盤の安定を図るために、学生数の確保に努力しているところであるが、全国の18歳人口が減少過程にある中で、本校の学生数も減少傾向にあり、苦戦している。 ・教育事業の財政基盤の安定を図るためには、学生募集に力を注ぐことは当然であるが、時代のニーズにあった学科の見直し等も課題である。 ・情報公開については、ホームページ等において継続的に発信し続けることが必要と考える。	・評価結果は適当であると認める。

9. 法令等の遵守

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準、養成施設指定規則、指導ガイドライン等法令の遵守はできている。毎年5月に養成施設の監督官庁へ前年度の実績を報告しており、各学科運営は適正に行われ、学校運営の適正化にも繋がっている。なお、規定上必要教員数は満たしているものの、運営上マンパワーが不足している学科もある。 ・今後も法令順守を行い、自己点検の結果を少しでも向上させることに役立てる。	・評価結果は適当であると認める。

10. 社会貢献

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・社会貢献・地域貢献は概ねできている。 ・学校として、学生のボランティア活動を奨励している。地元・宇多津の秋祭りをはじめ、香川丸亀国際ハーフマラソン、小豆島オーリーブマラソン及び瀬戸内海タートルフルマラソン（鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科）等各種イベントで活動を行っているほか、作業療法学科では1年次の夏季に、看護学科では献花祭に合わせ、それぞれ自主的にボランティアを行っている。その他、日本赤十字社の献血協力（年2回）にも多くの学生が応じている。 ・一方、教職員については創立記念日に学校周辺の清掃活動を行っている。 ・これまでの活動を継続するが、拡大するかどうかも含め、今後の在り方を検討すべきと考える。	・評価結果は適当であると認める。 ・平成28年7月に実施した学校創立60周年記念事業「健康で長生きまつり」は地域貢献に十分寄与したと言えるが、28年度の事業であるため、その評価は次年度の会議の場で改めて述べさせていただきたい。

1 1. 点検項目（1～10）に関する総括

自己点検評価 A

A：十分である。B：おおむね十分である。C：やや不十分である。D：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・学校評価については学科毎の教員の共通認識は徐々に浸透してきている。年々教育活動、学習支援、教育環境が整い、学習成果も上がってはきたが、まだ不十分な点が散見される。 ・自己点検評価は行えているものの、評価担当者以外のかかわりが少ないため、当該学科教員全体で情報共有が行えているかという視点では課題が残る。しかしながら、学科内で1次評価と2次評価を実施したため学科内における認識は向上したと思われる。自己点検評価の反省点を見出し、問題改善に向けての活動できるようにする。	・評価結果は適当であると認める。

1 2. 総括

目標達成状況と今後の課題・改善方策	学校関係者評価・意見
<目標達成状況> ②学校運営では28年度試行に向けて人事考課制度を導入した。③教育活動ではキャリア教育の実践、授業改善の取り組みにより改善、⑤学修支援のための学校独自の奨学金制度も学科は限定されるものの実現した。⑧財務の予算執行の適正化については、予算枠で上限管理する仕組みまでには至っていないものの、個別決裁時に事業内容を精査することで予算執行の適正が確保されていることから評価を向上させた。 - 入学者285人以上 入学者数は249人となり目標とした数値に届かなかった（目標達成率は87.4%）ものの、昨年（224人）よりも25人増加となった。 - 退学者の低減4%以内 退学率4%未満は2学科で達成した。学校全体では4.26%となり昨年度の6.48%に比して大きく改善した。 - 国家試験合格率95%以上 資格試験合格率95%以上という目標は4学科で達成した。達成できなかった学科においても全国平均以上の合格率は得られた。	・「入学した者全員が卒業し、資格も取得してくれるのが一番いいが、退学の理由は何か」との質問がなされた。 →学校職員の回答：成績不良、経済的理由、進路変更、適性に欠く等。経済的理由の事例として、留年した場合奨学金の貸与が停止されるため、学費を支払えなくなり退学に至るケースがある。進路変更では、保護者の希望によるところが強く入学したものの、学習過程で「この道は違う」と思うに至る場合などがある。また、近年の傾向として精神面の要因による場合が多くなっている。本人はもちろん家族にも問題があったり、それらを秘匿して入学したりする場合もある。それでも入学した以上、学校には責任があり、卒業できるよう

＜今後の課題・改善方策＞ 1. 入学者数 303 人以上。資料請求者の拡大、オープンキャンパスの内容の充実と参加者数の増加等 2. 退学率の低減 4%以内。前年度に引き続き、学生個々を把握し、精神的な悩みや学力の問題に対応して退学者の減少に努める。 3. 国家試験合格率 95%以上。全学科で 95%以上となるよう、在校生の資格試験対策を行う。また、資格未取得の卒業者に対し、聴講制度や模擬試験、個別指導等で資格取得を支援する。 4. 教育内容の充実、学科の再編 5. 人事考査制度の導入、実施 6. 専門職大学（仮称）への移行・参入の検討	鋭意努力したい。
--	-----------------